

うりもの 百景



品定めしながら
歩いてみるのも
楽しいですよ。



色とりどりの花木。
一言声をかければ育て
方も教えてもらえます。

市に集まる物と人

平成7年 安城市歴史博物館発行
「安城 食の風景」から

南明治の八幡社で四と九の付く日にひらかれる四九の市の歴史は、昭和30年代の後半からと新しいが、南明治を中心に多くの人買い物に出かける。露店は60店ほどが並ぶ。やきもの、刃物、鮮魚、野菜、果物、漬物、茶、切花、植木屋、下駄足などがある。

こうした人の集まる場所には、その場で立ち食いのできるような食い物を売る店が、必ずといっていいほど出ている。そこでは、買い物にきた客の足を止めさせるに十分すぎる、匂いを出して食い物を焼いている。そうしたいくつかの匂いや、けむりなどが入り交じって市特有の雰囲気を作り出している。

それにしても腹の減った時の立ち食いは、こたえ

客を待つ売り子▶

られない。寒い日など特にそうである。買い物の客も露店をのぞいて回るうちに知らず知らず荷物が増す。ひと休みしたいところに食べ物売店が出ている。目の前で食い物が焼けてくるのを目でおいながら、焼き立てを口にはこぶ。うまいわけである。露店の食い物屋は、市に行くもうひとつの楽しみでもあった。

(平成7年3月30日発行。一部抜粋)



朝市で見つけた

「もの」「笑顔」「いい話」……

朝8時。寒風が少し吹く中、「広報の取材で来たんですが」と声をかけると、「おつ、取材か? いいぞ、1回100万円な」と満面の笑みを浮かべながら、そんな言葉が返ってきました。

いつもの、静かなこの花ノ木町八幡社も、4と9のつく日、一か月に6日間人と自転車と車で大にぎわいになります。そう、今日は昭和30年代から50年近くも続く「朝市」の日です。



そこでは、売り手と買い手の会話が飛び交い、客どうしも「久しぶりだね」と近況を語り合うなど、世間話に花が咲きます。あちこちで食べ物焼く音がして、太陽に照らされて光輝く果物たちに囲まれ、人と人の触れあいで醸し出される温かい世界。今ではもう異空間になりつつあるこの場所、今回「もの」「笑顔」ちょっと「いい話」を探してみました。

お好み焼きやさんに聞いてみました

この朝市には、当初から店を出しているから、もう50年近くね。初めのころは活気があって人でごった返していた。最近、大型店ができたり、近くにあった更生病院が移転したりで、現実に客は減ってきた。若い人もあまり来なくなりました。でもここは、我々客が顔と顔をつき合わせてやりとりする。だから、景気の動向や世の中の動きなんかも敏感に感じる事ができる。言ってみれば新鮮な品と新鮮な情報を提供できるってことかな。そこが、ほかとは違うところだね。



西三商業協同組合
しげる
太田 森さん

いいもん見つけてね!



携帯電話で会話が成立し、通信販売やインターネットで物が買える今の時代。大型店に行けばどんなものでもそろっていて、世の中とても便利になりました。しかし顔と顔をつき合わせ、生の言葉と言葉があちらこちらを行き交う朝市の、今では珍しくなりつつあるそんな空間にも、わたしたちが忘れかけてしまった大切なものがいっぱいあると感じました。

ほっかほかのたこ焼きと温かい気持ちを胸に抱えながら、朝市を後にしました。

現在、このようなところで朝市が行われています

八幡社
シク
四九の市



桜井神社
フナ
二七市



白山比売神社
イチ ロク
一六市



「おはようございます」「こんにちは」
これが一般的なあいさつですが、ここにはもっといっぱいあいさつの言葉があります。
「なんだ、あんた元気かん?」「寒いで、運動がてらにきた」「よ〜、オレ病気治ったわ」
そんなあいさつから始まる、時に親しく、時に思いやりがあり、ちょっと笑ってしまう、売り手と買い手の機知に富んだやりとりをほんの少しのぞいてみました。

売 売り手 買 買い手



* 実録 *

あさいち
会話術

売 「いらっしゃい、まっとったよ〜」
買 「今日何がいい?」
売 「全部いいで、全部買ってきな!」
買 「どうしようかな〜。これにしようかな」
売 「それが。んな、まけたげる。でもみんなには内緒にしといてよ」

買 「今日、500円玉しかもったらん。500円にしときな」
売 「これが500円なら、店閉めるわ」
買 「じゃあ2つ買ったげるで1000円にしな」
売 「さっき500円しかないって?まあいい、1000円置いて持てきな」



買 「この前、いいもの売ってもらったからね。北海道で昆布のお土産買ってきた」
売 「そんな、商売屋がもらっとっちゃあ、おかしいって」
買 「いいで、もらっときな」
売 「いやあ、ありがとねえ。ホントうれしいわ」

